

ひなたぼっこ職員は

利用者ひとり一人の普通の生活(権利)を守ります

- ☆夜間等の防犯目的以外に“鍵”をかけず、自由に出入りできるようにし、見守ります
- ☆一人ひとりの心身の状態や希望に沿った支援を行います
- ☆認知症があっても子ども扱いせず、一人ひとりを尊重した対応をします
- ☆自分でできることができるように、お手伝いします
- ☆金銭の取り扱いを明らかにします
- ☆「自分ならこうしてもらいたい」という相手の立場に立った寄り添うケアを行います

制止や制限を少なく

『自由でのんびり』『ゆっくり楽しく』

役割や生きがいを大切に

『出来ることを一緒に』

個人の歴史や、生き方を尊重し

『その人らしく』

を基本に、主体はお年寄り、スタッフは共に暮らす人として地域の中で生活できるよう運営していきます。

ひなたぼっこは

この運営理念を実現するため

権利擁護・虐待防止に努め

以下のことに取り組みます



普通の生活支援

- 一人の人として尊重し、敬います
- 一人ひとりに合った楽しみを持ち役割をもって生活できるようにします
- お風呂やトイレ等、普通の生活が安心してできるようにします
- 外出したり、会いたい人に会えるようにし調整する等、想いや希望を尊重します
- 地域の住民としての活動に参加できるようにします

丁寧な話し方・聞き方

- 誰に対しても、普通に「〇〇さん」と呼びびします
- 小さな子どもに使うような言葉を使わず、丁寧な言葉を使います
- 専門用語は使わず、その人に分かり易い平易な言葉を使います
- 目線を合わせ、顔をみてお話をききます
- 想い、心配、嬉しい、悲しい…等を受け止めて共感します

丁寧な対応

- いつも笑顔で接し、ゆっくりはつきり、心をこめて接します
- 常に所在と安全に気を配ります
- 常に様子と体調が変わりがないか気かけます
- 一人ひとりに対して挨拶します
- 行動や決めることを押し付けず、提案し、自己決定を尊重します
- より良いサービスができるよう常に自分を振り返り、勉強します

認知症で判断が難しい、介護してあげている、自分にゆとりがない、誰もみていない…

いつのまにか権利侵害になっていませんか？例えば…

～身体虐待～

- 排泄や食事で失敗した時に、子どもを仕つけるようにたたく。
- 部屋や玄関等に鍵をかけて閉じ込める
- 立ち上がろうとするのを肩を抑えて座らせる。
- 介護服を着用させる。

～言葉・心理的虐待～

- 「何をやっているの!」、「くさい」、「きたない!」と怒る。
- その日の気分に対応を変える。
- 目でいらんだり、大声を出したりして威嚇する、怯えさせる。

- 返事もせず、無視する。

～性的虐待～

- 下着姿のままベッドに寝かしておく。
- 排泄等のことを回りに聞こえるように話す「〇〇さんおしっこ漏らしているよ」
- ワイセツな言葉を使って侮辱する。

～介護放棄(ネグレクト)～

- オムツ、下着を濡れたまま放置する。
- 具合が悪いのに病院に連れて行かない
- 十分な食事を出さない。食欲がない、食べられない状態を放置する。
- 安全に過ごしているか把握していない

- 掃除しない、汚れを放置する。
- 整容を行わず、放置する。
- 業務を手順通り遂行しない、怠る。
- 必要なものを与えない。
(ナースコール、車椅子、杖、メガネ、補聴器、入れ歯など)
- ケアプランの確認と実行を怠る。
- 事前の声掛け等、利用者に安心させる専門的技術を怠る。
- ～経済的虐待～
- 買い物に頼まれ、お釣りを渡さない。
- 通帳を預かり、勝手に使う。
- 財産を勝手に処分する…など。

私たちは 利用者本人様 ご家族 お客様 チームの皆さんに対していつも同じく丁寧な対応・話し方をし 良く聞きます

参考文献: GH協会発行リーフレット『介護・看護職員のための虐待防止ケースアドボケート実践』有馬良雄著 医歯薬出版(株)

2009年2月